

中国陸運

スイッチ輸送拡大

来年関西方面を磐石化

【広島】中国陸運（西尾義輝社長、広島県廿日市市）では、西日本で進めている自社トラックによるセンターや間のスイッチ輸送が好調だ。主に外食チェーンからも引き合いが増えており、

（6月末には岡山―広島を結ぶコースを増便した。更に、2020年には、大阪―岡山での取り扱いが増える見込みだ。

スイッチ輸送はドライバー不足を背景に、食品の共

同配達の効率化とドライバーの労働時間短縮を図るため、18年夏から始めた。大

阪、岡山、広島の各エリア

に設けている自社の物流セ

ンターと、福岡の協力会社

のセンターの4地域に拠点

を整備し、東西の幹線輸送

は、大阪―岡山・岡山―広

島、広島―福岡という都市

間のみに制限している。各

拠点で荷物を別のトラック

に積み替え、店舗などの最

終目的地に配達する。

6月30日に岡山南営業所

水島センター（倉敷市）か

ら広島北営業所（深川第2セ

ンター）（広島市安佐北区）までのコースに1台を増便

した。現在、スイッチ輸送

の専用便に毎日13台が稼働している。

来年には、大阪―岡山の

取扱量が増える見込み。岡

山からの上り便で一定量以

上の荷物を常に確保できる

ようになり、関西方面のス

イッチ輸送がより盤石化す

る見通しだ。

尾社長は「外食チェーンな

どが各地で出店を加速しよ

うとしても、配送先が増え

るとドライバーの労働時間

が伸びるために、コンプライ

アンス（法令順守）との両

立が難しくなっている。チ

ヤーラー便など既存の輸配

送システムでは対応し切れ

なくなつた荷物が、当社の

スイッチ輸送へ移行してく

るケースが多い」と説明す

る。

現在、同社は食品の輸配

送が全体の9割以上を占

め、そのうち、共配が4割

となつていて。今後もチャ

ーターは増やさず、スイッ

チ輸送など付加価値型の物

流に特化していく構えだ。

（矢野孝明）